



ユネスコESD福島ニュース No.3

特集 第1回成果発表会

【発行】法政大学キャリアデザイン学部・福島ESDコンソーシアム 編集責任者 坂本旬



<<目次>>

- 第1回福島ESDコンソーシアム成果発表会について 坂本 旬(法政大学) 2
- ユネスコからのメッセージ アルトン・グリズィール(ユネスコ) 3
- 成果発表会アンケートより 寺崎里水・坂本旬(法政大学) 7

平成27年度文部科学省ユネスコ活動補助事業[グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業]

第1回福島ESDコンソーシアム

成果発表会について

坂本 旬 (法政大学)



第1回福島ESDコンソーシアム成果発表会は「ふるさとをそだて、せかいにつながる」をテーマに、2月20日郡山市立中央図書館視聴覚ホールで開催され、悪天候にもかかわらず大学教員、小中高校の教職員、自治体職員、小学生・高校生・大学生、保護者・一般市民など約80人が参加しました。

第一部では、福島大学の三浦浩喜教授がOECD東北スクールの報告を行いました。次に会津電力から佐藤彌右衛門氏が、法政大学から坂本旬氏が基調報告を行いました。また、ユネスコからはアルトン・グリズィール専門官のビデオメッセージを上映しました。午後からは法政大学の笹川孝一教授の司会によるパネルディスカッションを行いました。

第二部では、須賀川市立白方小学校6年児童のネパールとのビデオレター交換の発表があり、それに引き続いて毎日映画社が作ったドキュメンタリー映像の上映をしました。次に只見町立朝日小学校の鈴木正和校長による朝日小学校の



「只見学」を中心としたESDの取り組みの報告を行いました。次に法政大学の学生の辻村美奈さんが授業支援の経験について報告するとともに、法政の学生による、ふたば未来学園高校の丹野純一校長と生徒へのインタビュー映像を上映しました。続いて、ふたば未来学園高校の對馬俊晴教諭による同校の活動とユネスコスクール加盟に向けた取り組みが紹介されました。

そして、県立安達高校の石井伸弥教諭と同校の1・2年生からは同校の復興教育の取り組みとユネスコアジア文化センターが進めているFOODプロジェクトについての報告が行われました。

その後、長岡素彦ESDコーディネーターの司会による2回目のパネルディスカッションを行い、最後に法政大学の菅原真悟講師が講評をしました。なお、午後の白方小学校の発表では郡山コミュニティFMの収録も行われ、この収録は3月1日に放送されました。

この成果発表会の様子は、MILとESDを融合した画期的な会議として、ユネスコのホームページでも写真や動画付きで紹介されました。URLが大変長いため、短縮URLとQRコードを掲載します。



<http://m.quel.jp/1UBcQ5x>



ユネスコからのメッセージ

アルトン・グリズィール

ユネスコ・メディア情報リテラシー専門官
翻訳 坂本 旬

成果発表会で上映したユネスコのアルトン・グリズィール氏のビデオレターの全文訳です。

■表現の自由と持続可能な開発のための教育

会場にお集まりの皆さん。私は、この重要な会議に参加されている若い人たちを特に歓迎し、お話をしたいと思います。この会議は第1回福島ESDコンソーシアム成果発表会です。ずいぶんと長い名前の会議ですが、重要だと思えます。ユネスコは、いろいろな関係者や大学の先生にまじって若い人たちがこの場に参加していることを大変うれしく思います。というのもユネスコはこのような会議をよく開くのですが、私たちが若い人の話をしてもその場にはいないことが多いからです。

さて、私はユネスコの代表として皆様にぜひお話をしたいと思います。最初に、皆さんの心のとどめておいてほしいことは、ユネスコは「表現の自由」の立場に立つということです。ユネスコは「表現の自由」を強く支持しています。皆さんは、この会議の中で「表現の自由」と「持続可能な開発のための教育」は何の関係があるのかと思うかもしれませんが、しかし、実際は「表現の自由」と「持続可能な開発のための教育」は直接的な関係があります。なぜならば、「持続可能な開発のための教育」は自由に考えるための自由だからです。そしてそれは、社会発展の課題解決のための教育の自由であり、情報にもとづいて行動する自由であり、その情報はさまざまな社会的課題と関係しています。すなわちそれは、政治、文化、文化的対話、環境問題、クリーンウォーターの課題であり、開発課題ならばどんな課題も関係していると思えます。そして、それは証拠に基づき、あらゆる人々がアクセスする情報に基づいて行動する自由です。

表現の自由という考え方は重要です。表現の自由という概念または現象は、持続可能な開発のための教育を可能にする重要なものです。自由に情報にアクセスできなければ、この教育は不可能です。私たちは表現の自由、学問研究



の自由、そして地球上のありとあらゆる開発課題を報道するメディアの自由がなければ、持続可能な開発のための教育を実現することはできません。この二つの要素の組み合わせは重要ですが、表現の自由や情報へのアクセスの自由だけでは、持続可能な開発のための教育にとっては十分ではありません。

なぜならば、市民が新しい情報アクセスを活用するためには新しい21世紀のコンピテンシー（知識やスキル、態度を含む全体的な能力）が必要になるからです。私たちは地球を覆う技術爆発に直面しており、あらゆる年齢の、あらゆる社会的背景を持った多くの人々が情報にアクセスするようになりました。

■メディア情報リテラシーの重要性

しかし、こうした情報へのアクセスは行動へと、すなわち私たち個々人が求めている地球へ関わっていくことにはまったく繋がっていないのです。私たちは、個々人やグループ、コミュニティは、それぞれの行動がローカルという文脈に留まっており、グローバル・シチズンシップのレベルに達しているとはまだいえません。個人の行動も国というコミュニティの行動は、他国や他の個々人、そして地球全体に影響をもたらします。メディア情報リテラシーは、人々に基礎的なコンピテンシーをもたらし、それによって人々は自らの情報環境を分析することができるようになります。持続可能な開発のための教育は、単なる学校教育制度や教育環境のためのものではありません。重要なのは、これは持続可能な開発のための教育の土台であり、質の高い教育を意味するということです。それはまた、私たちが日々接する情報環境でもあります。

皆さんは何らかのメディアや図書館、アーカイブが、学校教育とともに情報環境を作り上げ

ていることをご存知でしょう。それによって、持続可能な開発のための教育へのはつきりとした見通しを持つことができます。しかし、すでに話したように、このような教育情報環境だけではなく、私たちは基本的な21世紀コンピテンシーを必要としています。すべての市民が、情報環境を分析し、情報環境の中で交わされるメッセージを分析し、情報環境の中で共有される研究調査を分析するための知識やスキル、態度を発達させることが求められています。

たとえば、気候変動についての研究調査を取り上げるならば、気候変動についてはさまざまな見方があり、地球上で起こっている変動の現実の影響を理解するためには、ただ教育を受けているというだけでは不十分なのです。私たちは情報環境、この環境にアクセスして得ようとしている情報を分析しなければなりません。そして個人がこの情報について批判的であり、気候変動のような深刻な問題に関して、個人が情報に基づいた理解力を発揮しなければなりません。

■メディア情報リテラシーとESD

福島でこの会議が開催されたことはきわめて重要であり、象徴的なことだと思います。全世界の人々が数年前福島の原子力発電所で起こった出来事を知っています。そして私たちもそのことを理解しています。それは福島だけのことでなく、日本全体のことであり、地球全体に関わる問題なのです。求められるのはマルチステークホルダー・アプローチ、つまり多くの機関や関係者が関わる手法です。私たちはそれゆえに、法政大学が、このような持続可能な開発のための教育に関する重要な会議を開催し、メディア情報リテラシーと持続可能な開発のための教育の融合への試みを進めていることを賞賛したいと思います。

一年前、ユネスコは法政大学に招かれ、シンポジウムに参加しました。それは毎年開催される「メディア情報リテラシーと異文化間対話ウィーク」(MILID WEEK)です。このMILID WEEKには他の大学が開催するシンポジウムもありました。法政大学が開催したシンポジウムでは、田中優子総長や社会学部長、増田正人理事、坂本旬先生、村上郷子先生とも意見を交わしました。

私たちはメディア情報リテラシーを促進する

ための大事な仕事をしています。そして一つのビジョンが共有されています。それは環境開発の促進にメディア情報リテラシーを用いるというビジョンです。私たちは二人の仲介者、村上先生と坂本先生を通して法政大学に出会えたことを喜ばしく思います。そしてこのビジョンのもとに、持続可能な開発のための教育とメディア情報リテラシーの統合に向けて、マルチステークホルダー・アプローチを推進していくことを期待しています。

また、この企画に重要なパートナーが参加されていることを喜ばしく思います。日本ユネスコ国内委員会・文科省、教育委員会、協力していただいた福島大学、市民団体からの参加者やすでにお話したようにここに参加されている若い人たちもパートナーです。マルチステークホルダー・アプローチはとても大切です。それが持続可能な開発のために求められる変化をもたらすからです。

■若い人たちへのメッセージ

私はここに参加している若い人たちに、あまりいわれることがないような、ある特別なものの見方を少し示したいと思います。あまり言われることはないかもしれませんが、皆さんは「明日」という名の未来です。しかし、私は若い人たちにいいたいのです。よく聞いてください。皆さんは単なる「明日」という未来ではないのです。皆さんは「明日」であると同時に「今日」なのです。皆さんは持続可能な開発に「今日」参加することかできるのです。単に「明日」ではないのです。「今日」も、なのです。皆さんは若者として政策の議論に関わらなければなりません。皆さんはよりよい方策を作ることに関わらなければなりません。持続可能な開発の計画、デザイン、実行のあらゆるレベルに関わらなければなりません。福島だけではありません。日本だけでもありません。全世界です。そのチャンスをつかまなければなりません。機会を求めなければなりません。私がこのプレゼンの最初に話したように、持続可能な開発に若者として参加するのは皆さんの権利であり、自由なのです。

第二に、私がこの会議に参加している若い人たちに言いたいのは、皆さんが学校で将来のキャリアをめざすものとして、選択科目が政治、科学、技術、環境保護、ジャーナリズムやメディ

アであろうと、学校の中で追い求めるものを選択するという文化の中では、自分の未来を決定し、自己実現を果たすためには不十分だということです。このことはぜひ覚えておいてください。皆さんは私がすでに話したように、批判的に分析し、評価し、情報環境へと参加するための新しい態度や知識、スキルを身につけるには、学校だけでは不十分なのです。

なぜかという、情報環境は、それが公的なものであろうと、NPOのような市民組織であろうと、民間組織であろうと、あるいはメディア、ラジオ、テレビ、インターネット、図書館、アーカイブ、本や雑誌、ゲームといった、ありとあらゆるメディア情報供給源として描くことができます。この情報環境は同時に皆さんが望んでいる未来に影響を与えます。この未来とは、皆さんが大人になって皆さんの子どもたちが生きる未来であり、それまで皆さんは情報環境を分析できるコンピテンシーを発達させる必要があります。

私がお話してきた、この情報環境はメディア情報リテラシーというコンピテンシーを必要としています。もし、皆さんが学校でメディア情報リテラシーという新しいコンピテンシーを身につければ、皆さんはより強い個人に、より強いグループに、より強いコミュニティとなり、それを前に進めていくことができるでしょう。私が保証します。皆さんの福島、そして日本というコミュニティを前に進めてください。そして実際に全世界の発展に貢献してください。

■メディア情報リテラシーとは

メディア情報リテラシーに関して、最後に若者である皆さんに言いたいことは、メディア情報リテラシーとは何かということです。一般的に言えば、自分たちの情報環境に対して批判的であること、そして自分たちの情報環境に参加するということです。しかし、メディア情報リテラシーは、広い意味で、コンピテンシーを習得することです。コンピテンシーとは知識、スキル、態度のことです。それによって、皆さんは情報の必要性を分析し、理解します。そして、国としての、地球としての個々人のコミュニティとして、情報供給源の重要性を理解できるようになり、この情報供給源の目的を批判的に分析できるようになるのです。

そして、コンピテンシーはメッセージやその

メッセージがメディアやあらゆる形態の情報と情報源によって広められていることを批判的に分析できるよう、効果的に働きます。そして、自分自身の個人的、政治的、社会的な必要のためにメディア情報源を用い、あらゆる形態のメディアを用いて、持続可能な開発やより良い政治、表現の自由、ジェンダー平等、そしてあらゆる形態の自由を促進します。皆さん、ぜひユネスコのウェブサイトに行き、メディア情報リテラシーの活動を探してください。それを読めば、何らかの行動をすることができます。そしてさらにより多くの行動をすることができます。そして皆さんは、メディア情報リテラシーはどのようなものであり、いかにしてそれが皆さんの人生、あらゆる生活の側面に影響をもたらすか、理解できることを確かめてください。

■行動のためのアクション・リテラシー

私は、メディア情報リテラシーの一部として、一つの行動を起こすことについて話しました。いわば、専門的に言えば「アクション・リテラシー」と呼ぶことができるものです。そして共感を込めているならば、アクション・リテラシーとは、情報に関する決定を行い、行動し、得られた適切な証拠や質の高い情報にもとづき、質の高い情報を検索し、質の高い情報にアクセスすることです。いったん、皆さんがそれを探し、アクセスすれば、それを理解しているか確かめます。アクション・リテラシーとはその情報に基づいて行動を起こすために皆さんにとって必要なものです。もし、皆さんがグローバル市民になろうと思うのなら、単に何らかの情報を得るだけならばもはや正しいとはいえません。また、情報は事実に基づき、真実であるべきで、倫理的ではない情報を得てはいけません。

アクション・リテラシーは質の高い事実と真実にもとづく情報に基づいて行動を起こすものです。皆さんがこの会議から帰るまでに、私は皆さんが行動を起こせるよう、励ましたいと思います。そして若い人々のための活動に参加するよう、自分自身の、皆さんの家族の、友人の、コミュニティの、そして全世界のために、メディア情報リテラシーを促進する活動にぜひ参加してほしいと思います。そして、皆さんが持続可能な開発のための教育を促進するこの会議を通して得たメディア情報リテラシーをぜひ活用してほしいと思います。私の話はこれで終わりに

したいと思います、皆さんの役に立つことを祈っています。

■ユネスコMIL年報とESD

私は、メディア情報リテラシーは持続可能な開発のための教育を積極的に広報することができます。ここで皆さんにユネスコと文明の同盟、情報コミュニケーション研究センターのノルディコムが支援して出版された本を紹介したいと思います。それはユネスコと文明の同盟、法政大学も参加しているメディア情報リテラシー大学ネットワークの年報です。昨年、持続可能な開発目標がグローバルな開発コミュニティで採択されました。この本のテーマは「持続可能な開発目標のためのメディア情報リテラシー」です。この本は、この福島ESDコンソーシアムの会議と強い関係があると思います。皆さんがこの会議で話しあい、議論している内容はおそらくこの本でカバーされていることでしょう。大学の先生や政治家、開発に関わる国際組織のパートナーや代表者、この会議に参加している若い人々はユネスコのウェブサイトに行き、この年報にアクセスしてください。この本は大学ネットワークとすべての大学を含む国内一国際的なネットワークによって作られています。皆さんも大学とそのリーダーシップやパートナーシップを代表し、そのプロセスに関わることができます。

この本は5つの重要な内容を含んでいます。一つ目は、メディア情報リテラシーをどのように教え、学ぶかということです。またこの本では、言語多様性や私たちの情報や環境、コミュニケーションやエコロジーにおける多様性を重視し、メディア情報リテラシーによって、個人が異文化間対話を促進し、他の文化に関するメッセージを評価し、異文化を理解できるようになると書かれています。また、文化に対するある種のドグマや個人が持っている宗教における挑戦についても書かれています。このドグマは時にラジカル主義や過激主義につながる種を導くことになる信条です。この本がカバーする4つ目の分野はジェンダー平等と障がい者やあらゆるマイノリティ集団の情報へのアクセスの促進の重要性についてです。私はメディア情報リテラシーはそれを可能にすると思います。そして、最後の5つ目の分野ですが、それがこのESDコンソーシアムの会議と関係するものです。

いかにしてメディア情報リテラシーによって、私たちは環境リテラシーや健康リテラシー、農業リテラシー、それ以外のさまざまな社会的リテラシーを促進できるかというものです。私たちはメディア情報リテラシーを環境や農業に関わるあらゆる種類の社会的リテラシーとコンピテンシーに活用できると考えています。ぜひ、この本をダウンロードして活用してください。

■おわりに

ユネスコを招待していただくとともに、お話をさせていただく機会を与えてくださり、ありがとうございました。私たちは皆さん全員がこの会議で成果を挙げられることを希望いたします。私たちは、この会議がここで終わるのではなく、新たな行動へとつながるよう期待しています。この会議の最後には、メディア情報リテラシーを介した持続可能な開発のための教育が福島で、日本全国で、そして全世界で実践するための明確な行動が合意されなくてはなりません。ユネスコは皆さんを励まします。この会議が終わってもこのことは忘れないでください。皆さんはこの会議が重要な変化の始まりだったことに気がつくことになるでしょう。それは課題を用いて新しいパラダイムを生み出すものです。それはメディア情報リテラシーとグローバル・シチズンシップを介した持続可能な開発のための教育の新しいパラダイムなのです。ご静聴ありがとうございました。またお会いしましょう。

※本文で紹介されている『2015年版MILID年報』は下のURLからダウンロードできます。

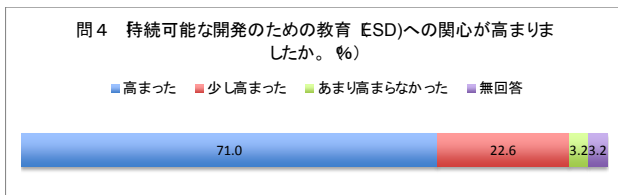
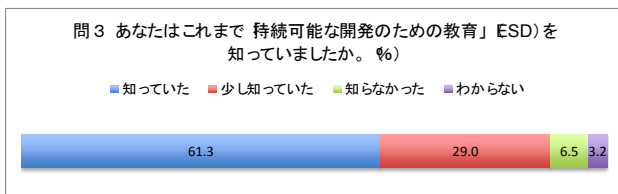
http://milunesco.unaoc.org/wp-content/uploads/2015/07/milid_yearbook_20151.pdf

 成果発表会アンケートより

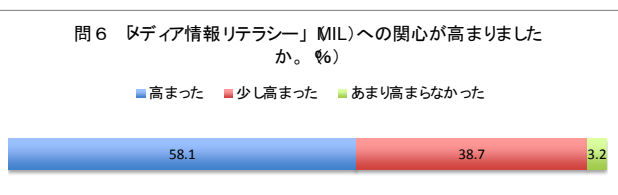
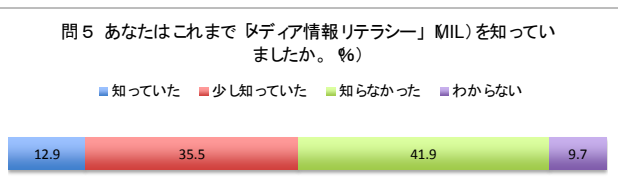
寺崎里水・坂本旬（法政大学）

第一回福島ESDコンソーシアム成果発表会の参加者にお願ひしたアンケートの集計結果の一部をご紹介します。参加者は約80名ですが、回収できたアンケート数は31名でした。そのうち、約25%が教員、30%が高校生でした。残りは大学生およびその他です。途中で退場した小学生はアンケートには含まれていません。

ESD（持続可能な開発のための教育）について知っていた人が約61%、関心が高まったという人は71%と約10%向上しました。

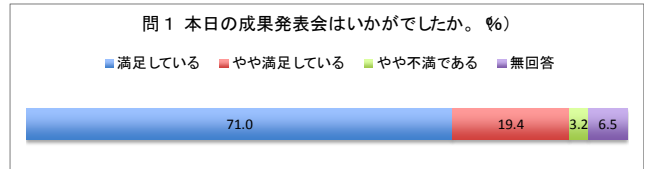


一方、MIL（メディア情報リテラシー）については、半数近くが知らなかった、もしくは分からないと答えていましたが、発表会に参加した結果、90%以上が少し高まった、もしくは高まったと答えています。ユネスコのメディア情報リテラシーを理解する機会としては成功だったといえるでしょう。



また、発表会への満足度を尋ねた質問に対し

ては、発表会への満足度もやや満足していると満足しているを合わせると90%以上となりました。成果発表会としては成功したといえるでしょう。



アンケートに書かれた発表会の感想を下に紹介いたします。

●とくに印象に残ったこと、興味深かったこと、感想、意見

○福島先生方が生徒たちが変化しつつあることが分かって大変すばらしいと思います。関連教育機関がまた地域がまた世界からもサポートしていることもすばらしいです。

○広くPRし、多くの方に参加してほしい。第2回目には会場一杯の参加者にお会いできることを熱望しています。

○会津の佐藤さんの熱く話すことに大変興味深く話していることも納得できました。特に公にたよらずやれることから自ら立ち上げ行動している話が目が開かれる思いでした。足元に宝があること・・・当然なことに見ないでいたのだと思いました。体を使って体験していくことの大切さを感じました。午前中とてもいい内容の話でしたので、もっと広報をしてたくさんの方々に聞かせたかった。県内ユネスコ協会等へお願いします。

○白方小学校とネパールの子供達の交流

○「福島県」が震災によって全世界の人々が知る事となり、知名度的には「ブランド」なのだという事に気がきました。今後、福島が、大きく復興、復活する事が悪い意味でなく、良い意味で、全世界に「福島ブランド」を発信できたらと思います。他国と共通の「地震」。同じ体験をしたからこそ、助けあい、協力しあう事ができれば、世界の平和にもつながって行くと思います。

○子供たちが世界に目を向けるきっかけが出来た事。子供たちの心が豊かになると良いなあ、と願います。

○震災を受けた福島だからできる事を次につなげていく力へと試されている。(原発事故が起きたことを消すのではなく生かす力)

○ネパールとの交流をこれからも続けてほしいです。子供も、大人も知ることで学べることもあり、お互いにいい影響になると思います。

○パネルディスカッションでの震災後の生活、交流後の学生達の気持ちの変更について話し合った時に気持ちを表現することの難しさを聞いて感じました。海外の人達との交流を持つ時に、言葉がなくても通じるということが十分に認知出来た。僕もこのような活動をしたいと思った。

○子どもたちが発表したこと！！3年間の学びの高まりと世界へのつながりが伝わった。たくさんの方々の支援が必要であることが分かった。今後ますます広まっていくことを願っています。

○福島は再生可能エネルギーだけでもできることが分かった。自分たちでは何ができるかを考え実行する。

○大学や企業の取り組みを知ることは今後の参考となりました。私たちの実践をふりかえるきっかけとなりました。

○単なる知識や学習ではなく、社会で共生していくための、様々な力が、ESDによって培われていくことが分かりました。ESD推進について、まだ多くの雲がかかっていますが、多くのヒントをいただきました。ESDに取り組んだ後の変化について話を聞いてよかったです。

○震災からの復興、再生ではなく、創造という三浦先生の言葉が印象的でした。

○どのような活動が、子どもたちを育てていくのか、特に福島の子供が当事者として考えていけるようなヒントをいただきました。貴重な機会をありがとうございました。

○県内のユネスコスクールの皆さんが集まって情報交換ができたことが有意義でした。学校の学びと社会をつなぐ役割を再確認できました。

○どの発表も素晴らしかったのですが、白方小とネパールのビデオレターが印象に残りました。これからの交流もとても楽しみです。ユネスコスクールならではの活動、ESDの成果をもっとみなさんに知っていただき、体験していただきたい。涙がでるほど感動的な発表会、ありがとうございました。(小と高はありました

が、中学生の取組がなかった)

○子どもの変容が印象に残った。特に高校生の行動力、考察等の深さに感心した。ユネスコスクールの活動による地元への発信力を考えると、小・中学校の地元(大人たち)への影響力は大きなものがある。今回の発表も各ユネスコ協会(県内現在7協会)全部参加して聞かせたかった。

○高校生の発表、白方小学校の児童の発表、意識の変容、姿の変容まで見られて感心しました。對島先生のおっしゃるように、教師から与えられたものでない、(子どもたちから生まれるには時間や場が必要だと思います)待ちでない子どもを育てることが、ESDの入り口としてさらに考えていかなければならないことだと思います。

○高校生の皆さんがとてもしっかりしていて、普段どんな事を考えているか話をしてみたいと思いました。白方の子供達、ネパールの子供達の成長がとてうれしく感じました。

○最初のビデオメッセージや、三浦先生の話にもあった、未来(明日)ではなく、今(今日)のイノベーションをする必要があるという話は、20歳の私にもすごく印象に残り、何をすべきか、何ができるか考えていこうと思った。

○海外との交流、異文化にふれることで、自分の知識がふえていくなあと感じました。あと、自分で考える力も大切ということきて、このプロジェクトに参加できて、良かったなあと感じました。

○学校で勉強して学んだ事を、社会に行かせていないという意見が数多くあり、自分自身ESDの学校に通っているのだから学んだことを社会に行かせる人になりたいなと思いました。

○ふたば未来学園でタイとドイツに研修に行ったことを知って行ってみたいと思ったし、安達高校でももっと国際交流がしたいと思った。

○地域や世界とつながり、見えてくるのが非常に多いと感じた。何かが起こるのを待つのではなく、今何をすべきなのか、問題意識を持ち、同時に共有、発信していくことが大切だと思いました。

平成27年度文部科学省ユネスコ活動補助事業
[グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業]
福島ESDコンソーシアム・法政大学キャリアデザイン学部